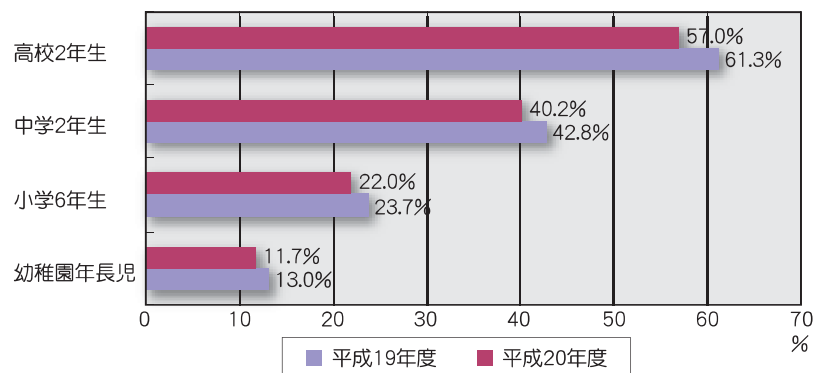


(4) 一人で朝ごはんを食べる子ども（孤食）

「子ども一人で朝ごはんを食べた」割合（資料5）は、幼稚園年長児でも1割以上いるほか、学年が上がるに伴って増加し、高校2年生では57.0%と半数を超えています。

今後も、なるべく早い段階で、参観会・家庭訪問・PTA行事等を活用して、食事の重要性や意義について啓発を行っていくことが大切です。

子ども一人で朝ごはんを食べた割合



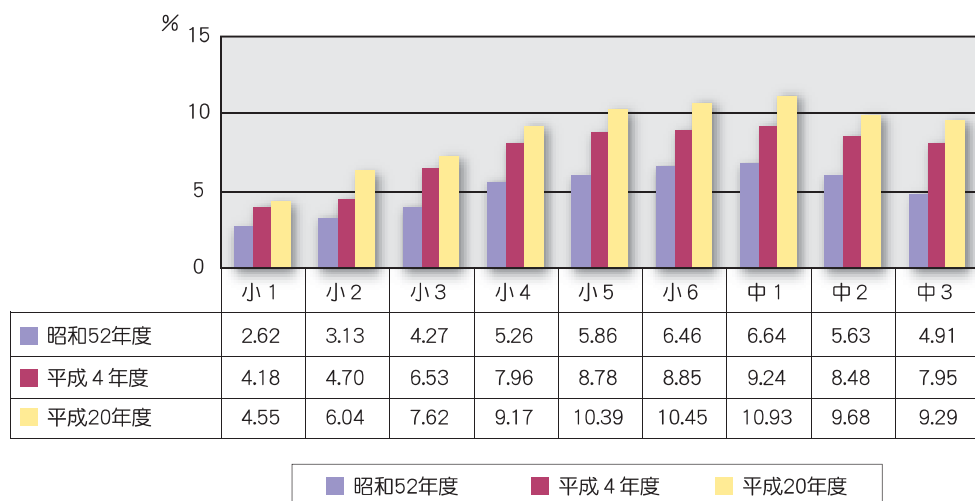
資料5 「静岡県教育委員会朝食調査」（平成19～20年度）

2 学校保健統計調査

(1) 肥満傾向児童生徒の出現率の推移

「文部科学省学校保健統計調査」（資料6①）によると肥満傾向児童生徒の出現率は、いずれの学年においても年々増加しています。将来的に生活習慣病等の誘引となることのないよう、児童生徒個々の健康課題を適切に把握し、早期の対応が望まれます。

肥満傾向児童生徒の出現率



資料6① 「文部科学省 学校保健統計調査」（昭和52年度～平成20年度より）

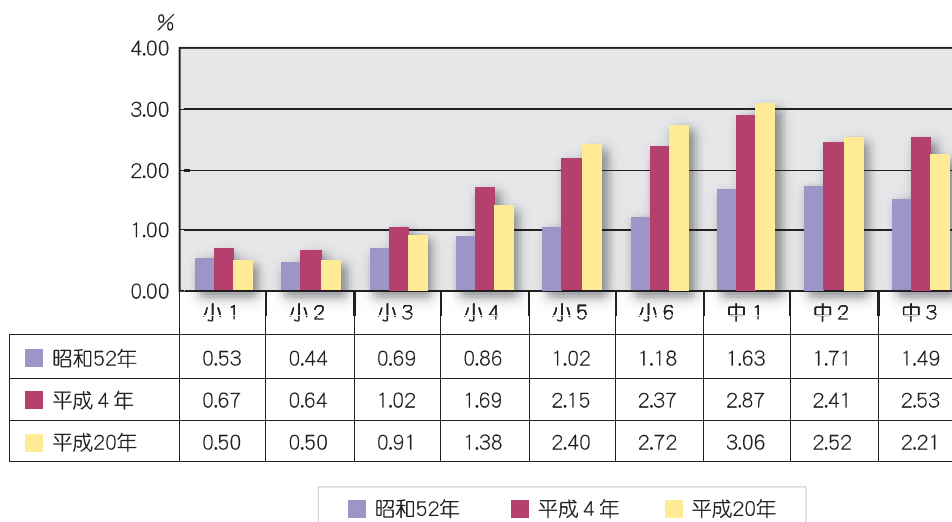
(注) 肥満傾向児とは以下の者である。

- 1 昭和52年から平成17年は、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の120%以上の者。
- 2 平成18年からは、以下の式により性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者。 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(2) 痩身傾向児童生徒の出現率の推移

「文部科学省学校保健統計調査」(資料6②)による痩身傾向児童生徒の出現率については、学年が上がるに伴って増加する傾向にあります。特に、小学校高学年から中学校入学にわたり、増加する傾向にあるため、体育科・保健体育科等の学習等と関連させつつ、食生活改善の視点も含め、計画的・継続的な指導を行っていくことが望めます。

痩身傾向児童生徒の出現率



資料6②「文部科学省 学校保健統計調査」(昭和52年度～平成20年度より)

(注) 痩身傾向児とは以下の者である。

- 1 昭和52年から平成17年は、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の80%以下の者。
- 2 平成18年からは、以下の式により性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者。 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

この他、生活習慣病の低年齢化や食物アレルギーへの対応等、食をめぐる子どもの問題が顕在化することと相まって、平成17年度には「食育基本法」の制定、平成20年度には「学校給食法」の改正等が行われました。

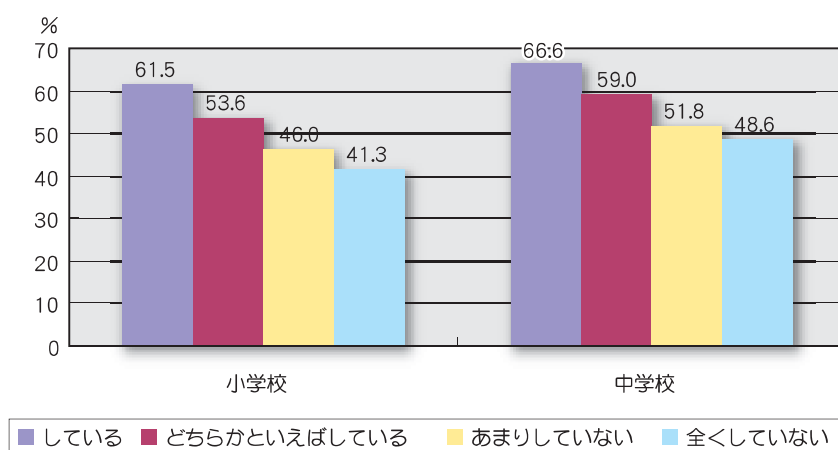
県としても、平成19年度に「静岡県食育推進計画」を策定し、様々な施策を展開しています。これらを踏まえ、今後、各学校で学校における食育を推進していくことが望めます。

(参考)

1 全国学力・学習状況調査による朝食の摂取と平均正答率との相関

「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果から、平均正答率が高い児童生徒には、「朝食を毎日食べている。」「学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている。」「家で学校の宿題をしている。」など、基本的な生活習慣が身に付いている傾向が見られました。

朝食の摂取と平均正答率



「静岡県の子どもたちはどうだったの？平成20年度全国学力・学習状況調査より」

※「している」→「朝食を食べている」と同義

※「平均正答率」は、国語と算数・数学の正答率を平均したもの

2 本県児童生徒の体格・体力の現状について

「平成20年度本県児童生徒の体格・体力の現状」（静岡県教育委員会）によると、「平成20年度新体力テスト記録会」において、各校種ともに、前年度平均を上回った種目があるものの、この40年の推移では全体的に記録は低下傾向にあると言えます。

